

2025年度 博士前期課程入学者選抜(Ⅰ期)
学 力 検 査

専 門 科 目
(日本語・日本語教育コース)

【問題】

以下の4問から1問を選んで解答しなさい。選択した問題の番号を□内に記すこと。1,200字程度で論じなさい。

【1】

日本語指導が必要な児童・生徒の数は毎年増加しており、日本語教育をめぐる重要な課題の一つとなっている。年少者日本語教育においては、単に子どもを日本の学校に適応させるための日本語教育ではなく、「子どもに必要な『ことばの力』とは何かを考え、その力をどのように育成するか」の観点で捉えることが重要であると言われている。これはどういうことか。子どもに必要な「ことばの力」とは何かを定義したうえで、その力をどのように育成するとよいかを、子どもの発達の視点と日本語能力の動態性を踏まえ論じなさい。

【2】

大衆文化については、マスコルチャー、ポピュラーカルチャー、サブカルチャーなど多様な表現が使われるように、20世紀以来、文化の大衆性が時代的変遷のなかで多角的に議論されてきた。文化の大衆性とは具体的にどのようなものか、日本社会における大衆文化を例にあげて論じなさい。

【3】

日本語のいわゆる「コソアド言葉」について、次のAとBに答えなさい。

A: 「コソアド言葉」に関する以下の①から③の用語の組み合わせのどれかひと組を選び、例文を挙げながら、600字から800字程度で説明してください。

- ①「融合型」と「対立型」の違い
- ②「現場指示」と「文脈指示」の違い
- ③「疑問詞」と「不定詞」の違い

B: 「コソアド」言葉にはどんなものがあるか、具体例をできるだけたくさん考えて、その具体例を、コソアドを横軸、品詞を縦軸にした表を作って、解答用紙の2ページ目にある解答欄に描いてください。

【4】

文学作品は、それを生み出した社会の価値観を反映することもあれば、それに亀裂を入れ、同時代社会の規範的な思考や感性のあり方に揺さぶりをかけることもある。近現代日本の文学作品を一つ取り上げ、それが同時代の文化的・社会的状況とどのようにかかわっているか、具体的に論じなさい。

2025年度 博士前期課程入学者選抜（I期） 学力検査
専門科目（日本語・日本語教育コース）

《解答・解答例》

論述試験のため評価のポイントを示す。

【問題1】

評価のポイント

- ・ 子どもに必要な「ことばの力」を、日常会話ができるということにとどまらず、学習や思考を支える認知的側面を含むものとして適切に捉え、定義していること。
- ・ 子どもの「ことばの力」を発達の観点から捉え、認知・母語発達や学校段階による違いに触れるとともに、その発達のあり方が学校・家庭・社会などの環境や経験との相互作用の中で形成されるものとして理解していること。
- ・ 子どもの「ことばの力」を育成するための教育的方策（教科学習との統合、協働学習、スキヤフオールディング、母語支援など）について触れながら具体的に論じていること。

【問題2】

評価のポイント

1. 文化の大衆性について、文化を定義した上で、マスコルチャー、ポピュラーカルチャー、サブカルチャーなどの概念に見られる文化の大衆化（例えば群衆・公衆・大衆の出現と文化価値の多様化、mass と popular の理念化、メディア操作と心理的効果など）について論理的に説明していること。
2. 日本社会における具体的な大衆文化の事例（行動・思考・物質的事例）を挙げ、その特徴や広がりをもとに具体的に論じていること。
3. 大衆文化と社会との関係について、時代的変遷や社会背景（メディア、消費社会、若者文化など）を踏まえ、近現代の文化的事象が如何に国際的な課題になり得るのかを論理的に説明していること。

【問題3】

評価のポイント

- ・ 「融合型と対立型」「現場指示と文脈指示」「疑問詞と不定詞」など、選択した概念の違いについて、例文を挙げながら適切に説明していること。
- ・ コソアド言葉の機能や用法について、日本語の指示詞体系の観点から整理していること。
- ・ コソアド言葉の具体例を幅広く挙げ、コ・ソ・ア・ドの区別および品詞の違いを理解して

いること。

- ・提示された形式（コソアドを横軸、品詞を縦軸とする表）に従い、体系的に整理して示していること。

【問題4】

評価のポイント

- ・近現代日本文学の具体的な作品を一つ取り上げ、その内容や特徴を適切に説明していること。
- ・作品が成立した時代の社会的・文化的背景について理解し、それを踏まえて論じていること。
- ・文学作品が社会の価値観を反映している側面、あるいは社会の規範や価値観に対して批判的・問題提起的な役割を果たしている側面について説明していること。
- ・作品内容と社会的背景との関係を具体例に基づいて示しながら、論理的に論述していること。

《出題の意図》

【問題1】

子どもの学びを支える「ことばの力」を、単一言語の能力としてではなく、発達過程や生活環境の中で形成される動的・関係的なものとして捉えられているかを問う。また、年少者日本語教育において、子どものことばの発達が、成人学習者とは異なる性質をもつことを踏まえ、その特性に即した教育のあり方を構想できるかを評価する。あわせて、日本語教育学の理論的知見と具体的な教育実践とを関連づけながら、日本語で論理的に記述する力を測る。

【問題2】

文化の理論を捉え、近現代社会の文化の特徴にある大衆性に対する論理的思考を問うことを目的としている。特に、マスコルチャー、ポピュラーカルチャー、サブカルチャーなどの関連概念に関する知識や用語の説明を確認し、日本を中心に大衆化に見られる文化的事象に対する洞察力を測っている。文化的事象の社会的背景や文化的課題を具体的に取りあげ、日本を含め国際的な文化関係に潜む文化・社会の複雑性を論理的に論述する力を評価する。

【問題3】

日本語の指示詞体系に関する基礎的知識を理解しているかを確認するとともに、言語学的概念を例文を用いて説明する能力を測る。また、日本語の語彙体系を整理し体系的に示す

力、および日本語教育・日本語学の基礎的理解と表現力を評価した。

【問題4】

文学作品とそれが生み出された社会的・文化的背景との関係について理解しているかを確認するとともに、具体的な文学作品を例に挙げて分析できるかを測る。文学作品の内容理解と社会的文脈との関連付けを通して、日本語による論理的思考力および記述力を評価した。